

しおざき あきこ  
**塩崎 明子さん**

株式会社颯爽取締役、ママジョブネット事務局、  
ひまわり 2525 プロジェクト代表

### ●アイデアで世の中を元気に！

浜松は地元の方ならもちろん、よそ者でも、行動しやすい環境が整っているまち。住民の可能性を信じ、主体性を引き出す仕組みをつくれれば様々なアイデアが出て、まちはもっと面白くなる。特に若者ならではの発想力を地域の大人たちが引き出し、地域活性につなげる仕組みとして、長期実践型のインターンシップの導入や起業家精神の育成、起業サポート、就労意欲や仕事を主体的に創造する意識を育てる早期のキャリア教育の充実を図る必要性を感じる。



[塩崎明子さん]  
就職・起業支援、子育てママの支援マガジン編集、  
遠州お仕事図鑑の制作などを手掛ける。ひまわり  
開花祭を西区・浜北区で開催。相模原市出身。

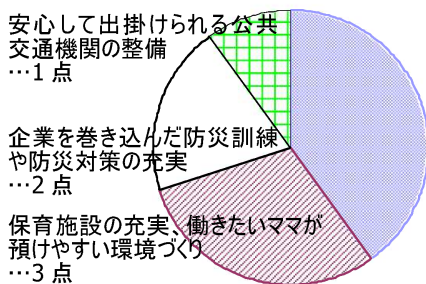
### ●未来を描けない世帯のためにできること

共働きでなければ家を買えない、ぜいたくができない、子どもを増やせない、未来も描けない。働きたくても、子どもが保育園に入れない、学童保育の定員が少ないなどで、フルタイムで働けない問題も生じている。具体的な対策として、働くママたちのサポートとして、夏冬の長期休みや土日・祝日の保育、病児の保育・学童保育の充実が必要不可欠。能力や意欲の高いママたちが埋もれてフラストレーションを抱えている現実をどうにかして、女性たちがもっと学び、活躍できる環境づくりが必要。また、少子化対策として3人以上産み育てると多くのメリットがあるような制度があれば、子どもが多くいる世帯も増えるのではないだろうか。

### ●女性の活躍を引き出したい

浜松には製造業を中心とした工業が多く、女性のサービス業やオフィスワークの仕事は少ない印象がある。浜松で魅力的な仕事を増やし、子育てしやすくなれば、首都圏などからも優秀な人材を確保することができる。女性の活躍を引き出して、地域の活性化につなげていきたい。

#### 主体性育成のための生涯学習や社会教育などの人材育成 ……4点



【浜松市への期待度グラフ】

### ●人材育成と世代を超えた対話を

あらゆる面で人材育成が必要。働く人・子育て世代・学生の意識や就労・健康への意識を高めなくてはならない。キャリアを充実させ、だれもが学びたいときに学べる社会教育体制の整備が必要となる。また、浜松には外国人が多いのに住民との交流が少ないのがもったいない。グローバル社会に向けて、国際交流・教育の充実を図るべきだと思う。以前に勉強会として、チームで議論を深める「100人ワールドカフェ」を企画した。対話により、良いアイデアが出たのでこうした勉強会を多く開催していきたい。

しげい  
**重井 アマンダさん**

特定非営利活動法人 浜松 NPO ネットワークセンター勤務



【重井アマンダさん】  
言葉や文化の違いを越え、お互いが尊敬し、尊重し合う“真の多文化共生”の実現を目指して活動に取り組む。

●「単一化」より「多様化」を!

「多様化」により発展!!

雇用に関し、「外国人は怠け者」というイメージを抱いている企業が多いように感じる。日本人と同様に外国人も人それぞれであり、その人を見て正当に評価し、採用等の判断をしてほしい。

また、工場などに勤務する外国人労働者は、以前の単なる労働力という扱いが現在でも変わっておらず、会社と話し合いの場を持ったりして意見や提案を伝える機会は与えられていない。日本人では思い付かないような新たな発想が生まれる可能性もあるので、ぜひ話し合える場をつくってもらいたい。

日本人だけではなく、外国人の考え方も活用して多様性を持つことは、企業の発展、引いては少子高齢化による労働力不足にも貢献できるはずである。

●“日本語教育”!!

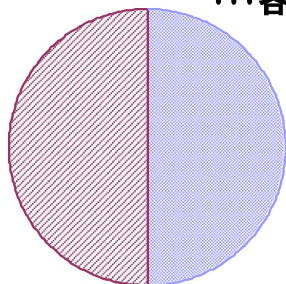
行政は、とにかく徹底的に「日本語教育」を!!

会社で意見や提案を行うためにも、日常会話ではなく、ビジネスでも通用する日本語の習得が必要となる。また、高度な日本語の習得は、様々な業種への就職の道を開くことになる。

行政では、「多国籍の住民に対しては多言語表記」という対応を取りがちであるが、国籍が増えていけば対応に限界がある。このような課題を解決するためにも、外国人への日本語教育は重要と考える。

●外国にルーツを持つ子どもたちに支援を…

- ・ 本当の意味の“多文化共生”ができているまち
  - ・ 国籍、ルーツに関係なく、児童の不就学ゼロのまち
- …各5点



【浜松市への期待度グラフ】

外国にルーツを持つ子どもたちには支援が必要!!

外国にルーツも持つ子どもたちは、学校で社会性や日本の文化などを身に着ける。しかし、そこで学んだ日本の文化は、自分たちの家庭で受け入れてもらえずに孤立して精神的に不安を抱えるケースが多い。

各学校に専門家を派遣するのではなく、教師がカウンセラーとなって子どもたちと接することが理想であり、大学等の教職課程に導入することが望まれる。

また、外国にルーツを持つ家庭は、金銭的に余裕がなく、子どもたちが進学をあきらめなければならないことも多い。子どもたちが様々な選択肢を持つためにも、奨学金などの金銭的な支援を望む。

## 静岡文化芸術大学のみなさん（1 頁目）

静岡文化芸術大学デザイン学部

磯村克郎研究室 産学協同ワークショップ参加者

かわむら さき 川村 早紀さん（浜松市出身）  
 こんどう ゆい 近藤 結衣さん（焼津市出身）  
 すがうち ゆみこ 菅内 祐未子さん（岐阜県出身）  
 せき ほなみ 関 穂菜美さん（茨城県出身）  
 なかしま わたる 中島 渉さん（石川県出身）  
 ひらいわ みなみ 平岩 美波さん（愛知県出身）  
 ふじさわ ゆき 藤澤 友希さん（長野県出身）  
 やまもと みずき 山本 瑞季さん（愛知県出身）  
 わたなべ こうへい 渡邊 弘平さん（愛知県出身）



【静岡文化芸術大学デザイン学部のみなさん】  
 磯村研究室の産学協同ワークショップに参加する。県外の出身者が多く、市内在住者とは異なる視点の意見が飛び出た。

### ●浜松市のイメージは・・・

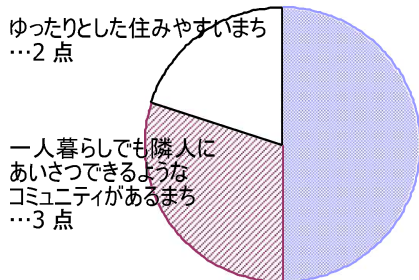
- 浜松市はものづくりのまちのイメージがある。ただし、楽器やバイクなどの産業などから具体的に何かを実感したというより、周りから言われてそのイメージを持つようになった。
- うなぎだけでなく、みかん、大根、しらす、ガーベラ、セルリー、うなぎいもなどの特産品がある。企画立案の授業で浜松の特産品を調べることがあり、特産品が多いことを知った。

### ●学生から見た「浜松まつり」

- 浜松まつりに魅力を感じているが、まつりに参加できない人が苦情を言っているということも知っている。参加する人とならない人の温度差はある。
- 野口町では、町内に住む学生が浜松まつりに参加できる仕組みがあり、参加したときは楽しかった。ただ、参加できなければうさく感じるかもしれない。
- 浜松まつりのように、イベントがあると人が一気に集まるが、終わると一気に誰もいなくなることが浜松の特徴でもある。

### また来たいと思える地元の人も「飽きない」まちに！

・・・5点



【浜松市への期待度グラフ】

### ●浜松を訪れる人の動きを考えて

- 浜松を訪れる人の移動を考えると電車の方が便利。その前提で考えると、現状は、電車が1本南北に走っているだけで、行く場所が限定されてしまうことが残念だ。また、浜松市内では、ある観光地から別の観光地への移動が大変で、1日に何箇所もまわることができない。
- 泊まりの観光に弱い。「さわやか」で食べて中田島砂丘に行くというのが学生の浜松旅行の定番コースだが、泊まりで浜松を過してもらうには2、3箇所の観光スポットが必要である。浜松で2日目も楽しめるまちづくりをしてほしい。

## 静岡文化芸術大学のみなさん（2 頁目）

### ●浜松のまち並み

#### ～「浜松にしかないものに」～

- 家族が浜松に来たときに、暖色系の道路整備、天気の良い日が多いこと、人がせかせか歩いていないというイメージを持ち、まちの雰囲気がやわらかく、のんびりしているという感想があった。
- アクト通りがきれいであるが故に、その他の場所が気になってしまう。まちなかはきれいなイメージはない。
- 花の植栽が整備されている場所がある。そういう場所がもっと増えたら良い。
- 浜松のイメージは、少し考えれば出てくるが、これというものが無い。いろいろあることが、何もないことにつながる。「浜松」から連想されるものが一つであった方がよい。例えば、遠鉄百貨店が都会的な建築様相に変わったが、このまち並みと浜松の伝統文化が融合したら、「浜松にしかないもの」ができるのではないかな。



### ●デザインを重視したまちづくり

- まち並み、工業製品や広告などを見て感じるが、浜松にはデザインとしての情報量が少ないと感じる。
- 若者をターゲットにするなどのコンセプトが明確で、同じ業種の店が1箇所に集約しているようなまちになってほしい。さらに、デザインによってコンセプトが伝わるまち並みにしてほしい。

### ●「垣根」を越えたコミュニケーションを

- NPO 法人などのまちづくりに関する活動が非常に多い印象がある。こうした団体の活動を通じて、地元愛の強さを感じる。自分の地元では、大学生は近くの大都市に通うこともあり、大学生と大人と一緒にまちづくりを行う印象はない。
- 介護ホームでのバイトで高齢者と関わる経験をしたことで、若者同士、高齢者同士など、似たもの同士の中でしかコミュニケーションがとれていないと気付いた。それは、外国人同士、障がい者同士でも同じだと思う。高齢者が若者とコミュニケーションを取れば、きっと喜ぶはずであるし、それぞれの「垣根」を越えられるような仕組みをつくってほしい。
- 現在、アパートの隣の人にもあいさつをしづらい状況がある。高齢者の一人暮らしが増えることが想定される 30 年後を考えたとき、アパートの隣人にあいさつできるような雰囲気があれば、一人でも暮らしやすくなる。
- 浜松では、駅前のプロムナードコンサートなどのイベントが多く、学校が地域と関わりを持つようとしているのが分かる。ただし、情報が一般市民にはあまり知られていないことも多く、告知をもっとしてほしい。いろんな人に知ってもらえれば、交流につながる。

## 静岡文化芸術大学のみなさん（1 頁目）

静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学科

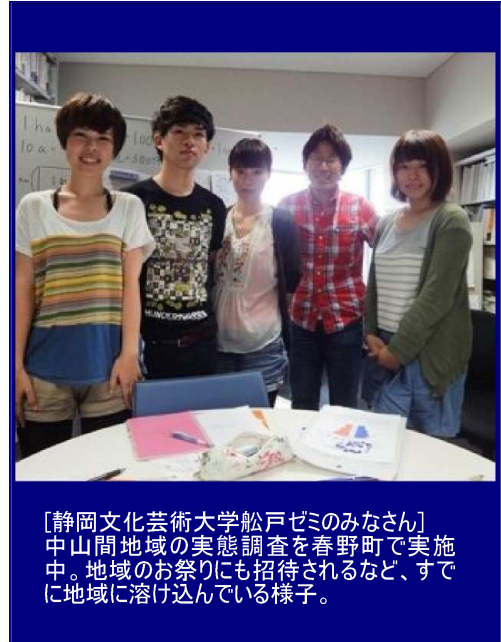
ふなと しゅういち  
船戸 修一研究室

まるやま ともは  
丸山 友葉さん（愛知県蒲郡市出身）

なかほら りょうすけ  
中原 僚介さん（川根本町出身）

ひらの みほ  
平野 実穂さん（浜松市出身）

たちばな たまゆり  
立花 宝百合さん（長野県木曾郡大滝村出身）



【静岡文化芸術大学船戸ゼミのみなさん】  
中山間地域の実態調査を春野町で実施中。地域のお祭りにも招待されるなど、すでに地域に溶け込んでいる様子。

### ●工業が有名。実は農業も強い

○浜松は工業が盛んで日本一の生産量や品質を誇るものがたくさんある印象。特に自動車・バイクやピアノのイメージが強い。

○「ものづくりのまち」というだけあって三方原の馬鈴薯や春野のお茶などの「農業」も盛んだ。

○ただ、農業が盛んということは大学で勉強して分かったこと。工業に比べ、農業に対する知名度は低い。

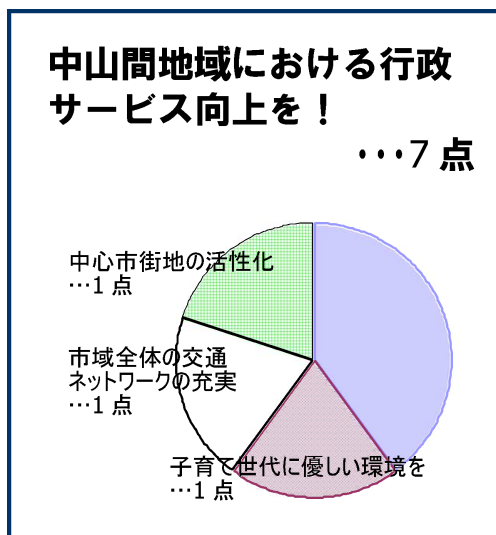
### ●「遠州とらふぐ」を知っているのは約 130 人中 3 人！？

○特産品と言えばやはり「うなぎ」「みかん」「浜松餃子」。

○しかし、うなぎは漁獲量が減っており、高値で庶民的ではない。手の届きやすい特産品開発を進めた方がよいのでは。

○市外の人をもてなす意味では、高級な特産品が喜ばれる。価値あるものと、大衆的なものと両方あった方がよい。

○企画立案という授業で「遠州とらふぐ」について研究している。館山寺の観光協会が遠州とらふぐを広めようと活動しており、首都圏や中京圏の富裕層に PR をしているが、文芸大の学生を対象に遠州とらふぐの認知度調査を実施したところ、約 130 人に聞いて知っていたのは 3 人だった。高級路線であるため学生には手が届きにくいということはあるが、例えばインターネット等で調べようとしても関連サイトがほとんどないなど、まだ PR が十分ではない。



【浜松市への期待度グラフ】

### ●大学の法被で浜松まつりに参加したい

○浜松まつりの盛り上がりはすごい。

○まつりのインパクトが強いため、明るく楽しい人柄が浜松市民のイメージ。

○地域ごとの団結力や盛り上がりがすごく、初めて参加する場合、最初は躊躇するが、参加すると、その一体感は楽しい。

○伝統あるお祭りのため難しいとは思いますが、大学のロゴ入りの法被をつくって、大学のサークルとして参加したいという学生もいる。

## 静岡文化芸術大学のみなさん（2 頁目）

### ●中心市街地の活性化を

- 若者にまちなかで買い物をしてもらうにはやはり百貨店やデパートが必要だ。商店街が充実すれば、上の年代の方も足を運ぶようになるのでは。
- まちなかにセレクトショップなどもあるが、学生にとっては敷居が高く、入りにくい印象がある。
- 遊ぶとなると、服飾店だけではなく映画館などもそろそろ郊外のショッピングモールに行く学生が多い。
- 一方で、郊外だとやはり高校生や車を持っていない学生にとっては遠い。
- まちなかは人の歩くスピードが早い。「過ごす」場所というよりも、仕事をしている人が「通る」場所であり、駅は「ツール」だ。
- ベンチなど、一休みできる場所があればよいと思う。



### ●ゼミの活動から（春野町における実態調査）

- 春野町において、中山間地域の集落の実態調査を行っている。調査の中で、合併前に比べて地元の意見がなかなか本庁に届かないという話を聞いた。
- 合併によって市域が広がり、地元を知らない市の職員が配置されるようになったため、行政と地域の距離がますます遠くなっているような印象を受ける。
- 限界集落の現実の厳しさを聞くにつけ、「私たち若い世代に何かできることはないか」と考えてしまう。
- 学校の統廃合の話や、その対応としてスクールバスの手配もあるが、バス手配の基準をぎりぎり満たさない児童もいるなど、苦勞している実態を聞く。
- 浜松市は市域が広いため、市内都市部と中山間地域の交流を進められると良い。その方法として民泊がある。今の浜松には民泊をマネジメントできる組織がないが、今後、その取り組みを支援できる NPO や市民活動組織などが立ち上がっていけば市内において「都市・農村交流」が実現できるはずだ。

### ●30 年後のまちづくりのモデルである「中山間地域」

- まちづくりに取り組むに当たっては、高齢者と子どもを基準とすることが重要だ。
- 高齢化を考えると医療や介護が重要な課題となる。とりわけ中山間地域は深刻な課題だ。
- 今後は超高齢社会を迎えるというが、中山間地域はすでに高齢化が進んでいる。しかし、春野町の自治会には 90 歳の会計係がいるなど、高齢者が現役として元気に活躍している。
- 社会参加をしていることが高齢者の生きがいになっている。
- 中山間地域は地域全体で支え合っているため、高齢者は孤立しておらず、地域の中で何かしら社会的な役割を担っている。市全体の今後を考えても、このように高齢者に役割を与える施策が必要である。
- 今後のまちづくりは行政依存ではなく、市民のマンパワーを引き出したうえで行われるべきである。行政は市民がまちづくりに参加しやすくなるような仕掛けや工夫を施す必要がある。

しみず よしかず  
**清水 良和さん**

浜松市環境学習指導員・地球温暖化防止活動推進員／  
環境省エコアクション 21 審査人／塩町自治会 会長

### ●やらまいか精神とまつりで培う絆

やらまいか精神は浜松のすばらしい文化だと思っている。京都に代表されるような世襲文化ではなく、来るものを拒まず、すべてを受け入れて取り組む気質が浜松にはある。

自治会として、浜松まつりは重要な催し。屋台でのおはやし、練りの勇ましさを風揚げなどがあり、浜松まつりでやらまいか精神と団結力が高まる気がする。その後の自治会の活動にも、まつりで培った絆が活かしている。



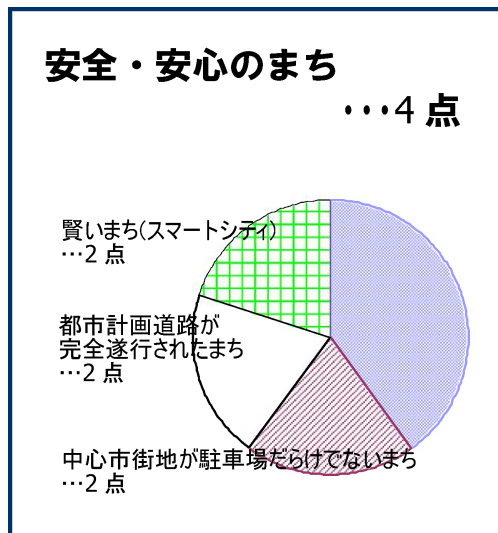
[清水良和さん]  
環境マネジメントシステムの指導・内部監査で活躍。エコアクション 21 の企業審査を年間 40 件ほど手掛ける。

### ●安心・安全を交通政策のキーワードに

安全・安心をキーワードとした交通政策を望みたい。歩道橋や地下道は人よりも車優先の発想ではないか。地下に車を通すなど、足の不自由な高齢者が安心して渡れる横断歩道の確保が必要だと思う。交通手段として、バス路線の拡充や増便も必要だと考える。例えば、循環バスくるの逆周りのルート化、家康公に関連したルートや停留所を取り入れてはどうだろうか。

### ●環境配慮型の都市に向けて乗り遅れてはいないか

気象庁発表の日照時間で浜松はナンバーワン（2011 年）。これに基づく新エネルギー政策に期待している。例えば、まち全体の電力の有効利用を図り、省資源化を徹底した環境配慮型の都市として、国が推進するスマートシティ構想がある。しかしながら、浜松はワントempo乗り遅れているように感じている。ソーラー発電やエコ推進などの個々の政策について、出来ているだけにコラボレーションに欠けているように見える。国の政策をうまく利用して、地球温暖化の防止対策をすべての市民が取り組むことこそ、重要ではないか。



【浜松市への期待度グラフ】

### ●表彰や補助制度で取り組みの推進を

浜松市では「新エネ・省エネ対策トップランナー認定制度」を始めて、事業所・企業に申請を呼びかけている。中小企業では省エネがやっとであり、新エネまで手が回らないのが現状。そのため、エコアクション 21 等を取得した中小企業をそれだけで特別表彰する制度を策定してほしい。さらに、事業所・企業が環境マネジメントシステムの認証を受けた場合、市から認証登録の費用 1 回分の補助をして、認証のためのインセンティブを付与してはどうだろうか。事業所・企業の特別表彰や補助制度により、環境への取り組みは一層進むと思う。

## ●歴史や文化の風格あるまちを！

浜松城は、徳川家康建立の出世城として歴史的に重要な意味を持つ。行政は、これを新たな観光の柱に据えようとしているが、現在の浜松城は RC 造、歴史的価値に見合った風格があるとは言えない。多くの歴史ファンが訪れる場所であり、来訪者に十分に満足してもらうためにも、姫路城や金沢城のように歴史的建造物に相応しい造りとし、常に手を入れ、歴史の風格あるまちづくりを進めてほしい。また、美術館や博物館などの文化芸術施設はいずれも古く小規模であることから、市民にとって魅力を感じない。こうした施設は一定の地域に集約し、連携を図ることで相互の魅力を高め合うような施策を進めてはどうか。



[杉浦悦郎さん]  
高齢者の単独世帯を減らすため、2・3 世代同居等の優遇措置があればと語る。

## ●ものづくりを教えるまちを！

自社では現在、寺社の建築なども手掛けているが、伝統的な大工の特殊技能や経験を若者に伝承するため、ベテランから若手まで、できるだけ年令の偏りを無くし、現場で一緒になって仕事をする環境をつくっている。将来の日本や浜松の産業を考えると、工場の大量生産ではなく、職人の技術を活かすことが大事である。浜松は東海道の中心に位置し、気候も良いことから、集積したものづくりの技術や経験を教える学校をつくり、全国から専門的技術を持つ職人とこれを学びたい若者を集め、浜松で学び働く人たちを増やすまちづくりを進めてはどうか。

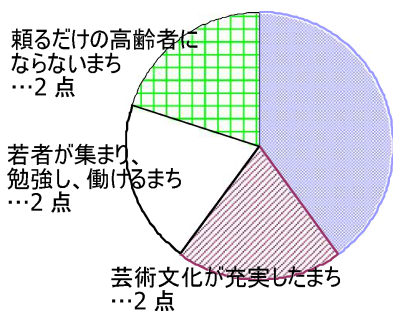
## ●浜松らしさを活かした教育を！

私は、幼いころから家業を見て育ち、働くことの具体的なイメージを見て育ったが、現在の学校教育では職業観を養うような機会が多いとは言えない。浜松は農林水産業、製造業、サービス業など様々な仕事があり、バラエティに富んだ産業構造となっている。また、光技術をはじめ、様々な分野で独自のポジションを築いている企業も多い。こうした浜松の特徴を活かし、

商工会議所と連携して、小学校高学年から中学生を対象とした職業体験を大幅に増やし、子どもたちの就業意欲の向上や地域産業の理解・促進を進めてはどうか。

### 中心市街地の活性化

…4 点



【浜松市への期待度グラフ】

## ●浜松の魅力が集まる中心市街地を！

まちなかで育った自分にとって、ここ数十年で中心市街地の活気が急落したことは寂しく感じる。小さい頃は、様々な人や物が集り、子どもにとって魅力的な場所であった。金沢の近江町市場では、市民と観光客が集まり活気を生み出している。浜松にも他に誇る美味しい農産物や海産物、人を集める魅力的なものが数多くある。地域通貨などの仕掛けも検討しながら、中心市街地を盛り上げていく必要がある。



すぎうら まさのり  
**杉浦 政紀さん**

株式会社杉浦組代表取締役社長  
静岡県公立高等学校 PTA 連絡協議会

### ●浜松の個性を活かしたまちづくりを

浜松のものづくりは、その時代のニーズをつかみ、流れに乗って発展の歴史を築いてきた。工業に比べ商業が弱いと言われるが、地元根付いた商業が発展するわけではなく、大手商業施設に頼るところが大きいことが一因としてある。また、農業も特産品が多いはずだが、活かしきれていない。浜松の個性を強く出した物販や飲食など、もっと地元のものを活かす取り組みで、農商工ともにバランスよく発展してほしい。

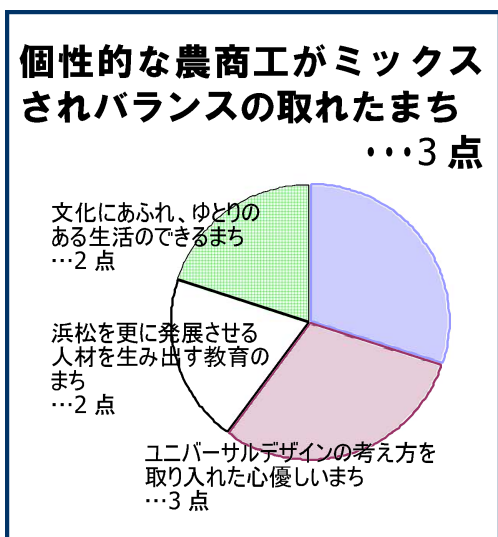
### ●市の玄関口の緑化整備を

駅周辺の市街地の活性化に関しては、交通手段の整備と市民の意識改革が必要だ。浜松は地方特有の車社会であるが、市民も便利さに慣れすぎて車に頼る意識が強く、それが交通網の発展を阻害しているのではないかと。

また、市域が広く、海、山、両方の自然が豊かな特徴があるが、都市緑化が少ない。市の中心部の公園が少なく、植樹帯等の整備ができていない。自然が豊かな政令市として、市の玄関口である駅周辺の緑化整備も必要。ただし、まちの活性化は、外部からの観光集客を目指すのではなく、まずは、市民が使いやすく、喜ぶまちづくりであってほしい。それが結果、観光客を受け入れられるまちにつながる。

### ●未来のための「コンクリート」と「ハード・ソフト・ハート」

公共施設など、これからの都市基盤整備については、今後も続く厳しい社会経済情勢や限られた財源を見据え、長期計画のもと進めていくべきだ。その際、災害に強い安心安全なまちづくりであることはもちろん、ユニバーサルデザインなど、総合的な視点が必要であり、イニ



【浜松市への期待度グラフ】



シャルコストとランニングコストを比較し、長期で考えるとどちらが合理的なのかを見極めていく必要がある。

「コンクリートから人へ」と一時よく言われたが、ライフサイクルを重視し、未来のために必要な施設、設備を整備する。そしてメンテナンスにより、長く有効に使う。そうすれば、コンクリートは未来のためになる。

ユニバーサルデザインの観点でいけば、ハード整備だけでなく、市民一人ひとりのハートに訴え、ソフトの整ったまちを目指してほしい。浜松市は政令市だが、いわゆる大都市の人と人との結びつきがないまちを目指すのではなく、田舎の温かみ、人付き合いを残したまちであってほしい。すべての人が住みやすいまちであり、市民一人ひとりがその意識を強く持っていたい。

すぎた ともき  
**杉田 智樹さん**

静岡県弁護士会



### ●次代を担う活気ある浜松の経済を！

次代を担う新たな産業の育成は、日本の課題。浜松も、製造業に続く新産業を誘致し、新たな雇用を生み出す必要がある。

また、平日の昼間、中心市街地を歩いている人が少ないと感じる。人口規模の問題もあるが、他の政令市と比べても、集客力が弱く、にぎわいに欠ける。松菱跡地の今の状況に、市民は皆満足していない。市街地の快適な環境をつくり、活性化を図ってはどうか。

### ●地域の核を結んで移動を活発化！

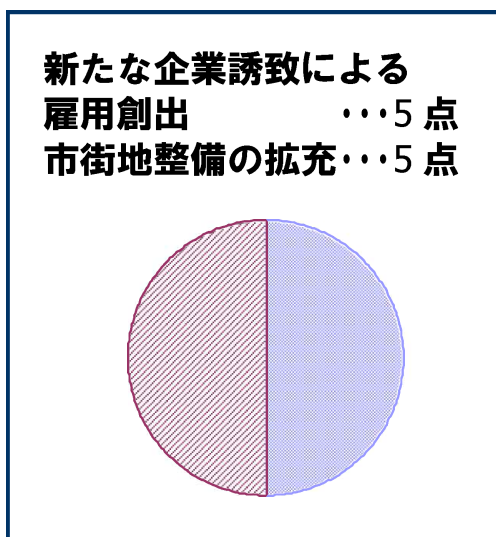
浜松は車社会だが、車の量に対し車線が少ない。バス路線では、渋滞を引き起こしている。また、郊外へ行くと街灯が少なく、夜間走行する際、暗く怖く感じる。まだまだ、道路の整備が十分でない。

中心市街地のほか、浜北副都心など、各地域の核を結んで、移動を活発化させるためにも、交通網の充実を検討してほしい。

### ●法曹分野との連携による公益の実現！

以前、浜松市建築紛争調停委員会の委員長を務めたことがあった。救済制度については、建築に関する事項だけでなく、必要に応じて充実させても良いと感じた。

現在も、市の外部監査に携わっており、貴重な体験をさせてもらっている。今後も、行政との適切な緊張を保ちつつ、公益の実現に向け、政策づくりなど、弁護士としての視点から意見を述べるとともに、行政対象暴力への対応など、十分連携していきたい。



【浜松市への期待度グラフ】

市政において、暴力団対策や税金の収納対策など、十分取り組んでいるが、外国人の人権や健康保険の問題にも力を入れてほしい。

また、今後は、高齢者が増えていくことで、成年後見や消費者問題への対応が、大きなポイントとなると思われる。

法曹界としても、弁護士など、法に携わる人数を適正化し、質の高いサービスを提供するとともに、行政とも必要な連携を十分とりながら、安全・安心な市民生活の実現に向けて、努力していきたいと考えている。

## ●地域とともに歩む…

地域とともに歩む総合生活産業として社会に貢献する。

これは遠鉄グループの経営理念である。

スーパー業界では、浜松は交通の便が良く、比較的賑わっている地域のため、県外業者が参入しやすいと考えている。しかし、その反面、うまくいかなければ撤退の可能性も高い。このため、地元資本である当社が地域の生活を守っていかねばならない。

当社は商圈を半径 1km と考え、店舗を展開している。

これは、交通弱者である高齢者の方たちが何とか歩ける距離。また、高齢化への対応として、野菜や惣菜などをできるだけ少量で買いやすくしたり、市内3店舗で「無料お買い物バス」を運行したりしている。可能な限り、店舗にお越しいただき、従業員との会話を楽しんでいただきたい。

また、当社でもネットスーパーを実施している。当初は、車が運転できない高齢者の需要を想定していたが、現状では、まちなかのマンション世帯や福祉施設など法人の需要も多い。仕事等でネットに慣れているこれからの高齢者世代の需要は見込めるが、ネットに不慣れな今の高齢者世代には店舗で従業員と会話をしながら直接買い物をすることが好まれるようである。

## ●浜松市版リサイクルシステムの構築を!!

行政には、リサイクルシステムの構築をお願いしたい。

当社では、食品を扱う企業として、消費期限切れなどで日々食品廃棄物が発生している。現在、浜松市にはリサイクル施設がないので、すべて焼却処分している。イオンなど全国展開している小売りスーパーでは、自前で肥料等にリサイクルする施設を持っているが、現状で当社単独の施設を保有することは難しい。

その他、環境面については、省エネの観点から、店舗の新設や改装の際は、LED化を積極的に進めている。これについても、行政からの助成や優遇措置などを検討してもらえるとありがたい。

防災面においても、地域貢献できればと考えている。静鉄ストアの店舗で、有事の際に炊き出し釜として使用できる屋外のベンチがテレビで紹介されていた。このような先進事例を研究し、当社でも積極的に取り入れていきたい。

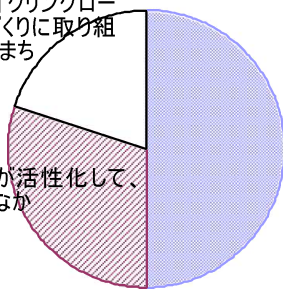


【杉山公一さん】  
価格競争ではなく、地産地消など食の安全・安心、店舗におけるお客様との会話などに積極的に取り組む。

### 防災対策が整い、安心して生活ができるまち…5点

遊歩道やサイクリングロードなど健康づくりに取り組むことができるまち  
…2点

中心市街地が活性化して、魅力あるまちなか  
…3点



【浜松市への期待度グラフ】